



# 「活着ていることわざ」

船橋市議会議員

神田 廣栄 (かんだひろえい) 議会報告

【事務所】船橋市前原西8-24-8 ☎490-3333 FAX 465-7117

Eメール hiroei@muc.biglobe.ne.jp

ホームページ <http://www.hiroei.jp>

## 一陽来復 (いちようらいふく) 。 臥薪嘗胆 (がしんしょうたん)

【一陽来復】◇悪いことが続いたあと、ようやく良いほうへ運が向かっていくこと。

・冬至に寒さの極限に達し、やがて暖かい春が来ることから。

【臥薪嘗胆】◇目的を果たすために、長い間苦勞し努力すること。

・春秋時代に、呉王の夫差(ふさ)は越王の勾踐(こうせん)に敗れた父の仇を忘れぬよう、薪(たき)の上に臥(ふ)して復讐心をかきたて、ついに勾踐を会稽山(かいがいざん)で降伏させた。敗れた勾踐は苦い胆(たん)をなめてはその恥辱を忘れず、苦心の末に夫差を滅ぼしたという故事による。

去る3月11日に突如襲ってきた大地震と大津波、それに起因する福島県の東京電力原子力発電所の放射性物質(放射能)漏れ事故など、それこそ未曾有の出来事の連続でした。現在は「計画停電」が行われていませんが、震災から1ヶ月目の4月11日にも余震と思われる震度6弱の地震が発生し、その後も頻繁(ひびん)に余震が続いて日常生活も不安の連続ですが「一陽来復」を願いたいものです。



船橋市でも、4月7日現在、負傷者31名(重傷1名、中等症5名、軽傷等25名)、住宅全壊5棟、半壊5棟、一部破損218棟などの被害状況です。その他にも液状化やブロック塀の倒壊や屋根瓦の破損などの被害が多数あります。この大震災により亡くなられた方のご冥福を心よりお祈りいたしますとともに被害に遭われた方にお見舞いを申し上げます。

さて、このような現状を考えますと「選挙どころではないだろう」という声も聞こえてくるのも当然かも知れません。千葉県議会議員選挙が終わったばかりですが、4月17日告示・24日投票の市議会議員選挙も従来にならぬ選挙になります。船橋市において県議選の投票率は39.28%と、前回より1.88%低下しました。今後の船橋市の防災対策も今まで以上に真剣に考えなければなりませんから、自分自身のためにも貴重な1票を大切にせず投票所に足を運んで欲しいものです。



今回の大震災により、私が以前より何回も議会で取り上げてきました「防災行政無線の重要性」が問われています。「何を言っているのか分からない」とか「全く聞こえない」という声が非常に多く聞かれますし、私自身も同じ体験をしています。大地震が発生したらテレビやラジオはすぐに見聞きできません。その時に頼りになるのが防災行政無線です。まず、この数を増やして情報伝達を確実にしなければなりません。

大地震も怖いのですが、津波により幾多の貴い人命が失われました。一刻も早い退避命令の発令など、多くの情報が即時に発することにより被害を減少させることができます。船橋市は地震の揺れに対しては耐震補強などの対策を講じてきていますが、津波については無防備の状態です。市街地は海拔1～5mの低い土地に発展していますが、より安全な高い台地にある市街化調整区域（建物を建てることを抑制する区域）の見直しも必ず必要となります。



建てるなら高台に

市内で一番標高の高い場所は、習志野で32mです。以下主な地点の標高を示します。

自衛隊……29m 北習志野駅……27m 芝山団地……25m  
前原団地……21m 夏見台……19m 前原西8丁目……13m  
駿河台・芝山1丁目……7m 医療センター……3～4m  
船橋中央市場……3m 本町5丁目……1～2m

船橋市は東京湾の奥に位置していますから、大津波が発生しても多少は緩和されると思いますが、油断はできません。大地震・大津波が発生したら、まず高台に避難、高台がない場合は、ビル・マンションの高い所に避難するという意識を持つことです。

第1回定例会の最終日の3月28日に、前年度比7.2%増の1719億円の新年度の予算が決定しましたが、不要不急なもの先送りにしてでも、学校などの公共施設の耐震化や防災行政無線の拡大、液状化などによる市内の被災者の救済を至急に実行すべきです。

また、本市の液状化被害なども含めて、この東日本大震災の復興の一助にするために、議員と市職員の給料を6ヶ月間20%カットすることも提案してまいります。既に船橋市議会としては、議会の最終日に行う予定の現職議員50名の懇親会を中止して、その会費50万円を義援金に協力しました。

そして、1期目から主張していますが、徹底して無駄の削減に努めなければなりません。その一環で、まず働かない議員は要りません。50人定数を10人減らして40人とすることも主張しています。管理職を削減して行政のスリム化や外郭団体の整理と統合も訴えてきました。



ところで、私は今まで、この大震災の被災者の受け入れに没頭していました。選挙も大切ですが、今日、明日の食べ物や寝る場所すらままならない方々の苦難を思えば、何を最優先すべきか明白です。問い合わせは多数ありますが、現在、印西市内で福島県浪江町の方々、小学生2名と高校生1名を含む7名を受け入れています。印西市と近隣の小学校、高校は温かく迎え入れてくれました。まだまだ受け入れの余裕がありますので、ご親戚や知人の方でお困りの方がございましたらご連絡くださいますようお願いいたします。

福島県から避難してきた方々が敬遠されるような話がありました。非常に悲しいことです。ぜひ温かく迎えましょう。また、計画停電も辛かったのですが、今まで何も考えず野放図に使っていた電気もその有り難さがよく分かりました。暑い夏場の停電を回避するためにも15～20%の節電にも協力していきましょう。



私たちの先人は『臥薪嘗胆』何回も苦難から立ち直りました。後ろを向くのはやめて助け合いながら早い復興を願って頑張りましょう。《頑張るぞ！！日本・船橋》